



巻頭言／経営意識を高め、社会貢献活動の一層の充実を図る — 2
 28年度新規採用者9名の内定式（高齢部門） — 3
 叙勲 高岡理事長に旭日中綬章 — 3
 待機児童解消へ園舎増設 第二愛育園 — 3

地域貢献・交流

認知症サポーターを育てよう — 4~5
 地域を守る！ 高齢者を守る！ 合同防災訓 — 4~5
 保健師招き子育て講座 一津屋愛育園 — 5
 乳がんの早期発見・ピンクリボンに参加 認定こども園 正雀愛育園 — 5

人材育成・研修

在日外国人受け入れ・養成の取り組み発表 — 6
 ケアコンテストで坂本幸平スタッフ優秀賞 — 6
 「後輩指導」テーマに保育士中堅研修 — 7
 先輩からのメッセージ — 6~7
 トピックス — 8

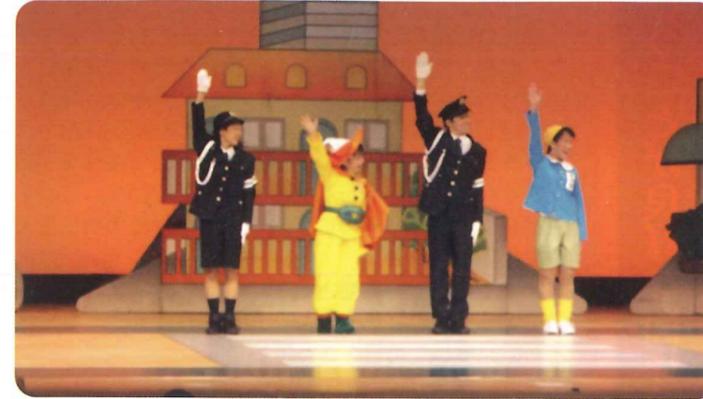


4、5歳児が交通ルール学ぶ 園児参加型「親と子の交通安全ミュージカル」

東生野保育所では、JA共済の招待で4・5歳児が『親と子の交通安全ミュージカル』（大阪国際交流センター、11月25日）を鑑賞しました。

正しい横断歩道の渡り方など子どもたちにも理解できる交通ルールをミュージカル化、実際に体験できる園児参加型。交通安全教育の第一歩である「歩行者として安全に道路を通行することができるために」が目標で、園児2名が緊張した面持ちでステージに上がり体験。「ルールを守る」という意識が芽生える貴重な経験となりました。

～東生野保育所～



吹奏楽を始めました！ 愛らしくすてきな音色めざし 楽団名は「リリーオブバリー」

愛育園7ヶ園のスタッフでメンバーを募り、昨年10月から吹奏楽の練習をはじめました。すずらんのように愛らしく美しい演奏ができるようにと楽団名は名づけて「リリーオブバリー」。



学生時代に吹奏楽の経験者、初心者のスタッフらも含めたチーム。講師の先生を迎えて指導してもらい、素敵な音が奏でられるように、みなさんに披露できる機会を目標に、メンバー全員練習に励んでいます。

愛育園選抜「がちんこマッチ」で敢闘賞 北摂ブロック保育部会職員バレーボール大会



北摂ブロック保育部会職員バレーボール大会（12月13日）が箕面スカイアリーナで開催され、愛育園選抜A、B2チームが出場しました。Aチームは昨夏の民間共済会バレーボール大会出場選手で編成し「がちんこマッチリーグ」に、Bチームはメンバーの半分が年配スタッフで「なかよしフレンドマッチリーグ」にそれぞれ参戦。Aチームは1回戦圧勝、2回戦は惜しくも得失点差で敗退しましたが、総合成績で敢闘賞、Bチームも参加5チームの中で全勝する健闘ぶりでした。愛育園スタッフの応援もありチームワークや職員間の絆を一層深めた1日となりました。



地域の高齢者15名招き「よいしょ！よいしょ！」 認定こども園 正雀愛育園で恒例の「おもちつき会」

認定こども園 正雀愛育園では、地域の高齢者の方15名を迎え、恒例の「おもちつき会」（12月9日）を行いました。例年に比べ暖かく気持ちのいい天候の中で、「よいしょ！よいしょ」とみんなで掛け声を出し合いながら、おもちをつくことができました。

おいしいちゃんと一緒にきねを持ち、つくたびに伸びるおもちを見て子どもたちは大歓声。おばあちゃんには、つきたてのおもちを鏡餅にしたり、小さく丸めてもらいました。そのおもちでさっそく、ぜんざいを作りおいしく頂きました。日本の伝統文化が感じ取れる楽しい一日となりました。



～認定こども園 正雀愛育園～

〔法人理念〕

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

〔サービス目標〕

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

〔老人施設経営方針〕

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する

〔愛育園経営方針〕

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2016年1月

【発行】社会福祉法人 成光苑（理事長 高岡 國士）
 〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
 TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
 URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元開放のお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

巻頭言



経営意識を高め、社会貢献活動の一層の充実を図る

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては、新春を寿ぎ健やかに迎えることと存じます。日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進に多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私事ではございますが、二十七年秋の叙勲に際し、はからずも旭日中綬章という身に余る栄誉に浴することができました。ひとえに皆々様の心温かき御理解と御協力の賜と深く感謝申し上げます。この栄誉に恥じるこのなきよう「層精進いたす所存でございますので、今後とも相変わらぬ御支援のほどお願い申し上げます。

掲げられた新しい3本の矢

現政権のアベノミクスのこれまでの動きでは、経済の再建と財政再建、TPP導入に向けた構造改革、社会保障改革が進められてきました。

特に、社会保障分野の少子高齢化への対策として、給付の抑制や高額所得者への負担強化が進められ、また、女性の社会進出・地位の向上が進む中での支援体制の構築が検討されてきました。昨年十月、安倍政権は内閣改造にあたり「億総活躍社会」をスローガンに、「希望を生み出す強い経済（GDP六〇〇兆円）」「夢をつむぐ子育て支援（希望出生率一・八）」「安心につながる社会保障（介護離職ゼロ）」という新たな三本の矢が掲げられました。少子高齢化に歯止めをかけ、五十年後の日本が人口一億人を維持し、国民誰もが地域や職場、家庭で生きがいのある充実した生活を送ることができる社会の実現をめざすと

れています。

多様な介護ニーズに対応

二十八年の成光苑は従来の介護・保育事業に加え、新たに障がい福祉事業を四月に開設するなどさらなる事業展開を進めるとともに、地域・社会貢献活動の義務化に向け、活動の層の充実と明確化を図るため、各部門の代表者で編成する検討会設置の準備を始めております。

施設整備では年度当初より、育児と仕事の両立支援や待機児童解消への貢献として第二愛育園の増築及び定員増加（七月開所予定）、高槻けやきの郷のサービス付高齢者住宅の新規開設（九月開所予定）、昭和五十四年に開設した岩戸ホームの老朽改築及び定員増の準備に取り組んでまいりました。

介護部門においては報酬が下がり、経営的には厳しくなる一方ではありますが、多様な介護ニーズに対応できる体制整備を進めるため、今後も検討を重ねていくこととしております。

外国人労働者の雇用促進へ

福祉を取り巻く状況は年々厳しくなり、財務諸表や役員報酬の開示、経営管理体制の強化（ガバナンス・法定監査）など制度改革が進む中、成光苑では法人本部の強化はもとより、幹部職員の経営意識を高める研修を実施してまいります。

また、現在の福祉業界で最も大きな課題となつている人材確保についても、外国人労働者の雇用に向け

「目標・目的を持って頑張りつづ」高岡理事長が激励



二十八年度新規採用者9名の内定式（高齢部門）

成光苑は、28年度新規採用者（高卒除く）9名の内定式（12月6日）を行いました。本年度に新規障がい施設「ココリス」の開設を控え、現在も採用試験を続行している状況ですが、まず高齢部門に内定しているみなさんを主にした内定式となりました。また、高卒も複数名内定するなど各地域で若年層にも成光苑の福祉事業が根付いてきているものと思われま

す。内定式で高岡理事長は「目標・目的を常に意識していることが、将来の自分の成長や自信にも多く影響するので、ぜひ頑張りつづいて欲しい」と内定者を激励されました。

その後、各施設長の紹介があり、人材育成・研修体系について説明されました。先輩スタッフからは「両親が成光苑で福祉

の仕事をしていることもあって日常的に地域との関わりが深く、両親の姿に自分も福祉の仕事に憧れるようになった。」と自ら福祉業界に飛び込んだいきさつに触れ、「いつか自分も多くの方から頼りにされる人になりたい。私と一緒に頑張りましょう！」と、内定者の心に響く熱いメッセージが送られました。

内定者の自己紹介では「私は〇〇な人です！」の一言PRが設けられ、「アクティブ」「マイペース」「よく笑う」「楽しい」から「ギャップ」「？」などユニークな表現もあり、内定者の緊張もほぐれたようでした。

自分の長所を生かし、4月から成光苑のスタッフとして活躍してくれることに期待しています。

高岡國士理事長に旭日中綬章 受章記念式典・祝賀会に90人出席

成光苑の高岡國士理事長は昨秋の叙勲で旭日中綬章を受章されましたが、岩戸ホーム・藤原義章施設長と第二愛育園・春本繁子園長を発起人代表に、受章記念式典・祝賀会（12月23日）がホテル阪急エキスポパークで行われ、成光苑の役員関係者はじめ保育、高齢部門のスタッフ約90名が出席しました。

高岡理事長の受章は、平成17年から全国社会福祉施設協議会 副会長として取り組まれてきた社会福祉事業活動への功績が高く評価されたものです。記念式典では、発起人を代表し藤原施設長から「高岡理事長が栄誉に浴されたことに敬意を表しますとともに、我々スタッフにとっても誇りに思います」と喜びの挨拶があり、役員代表からも「組織のトップでありながら高岡理事長の常に謙虚な姿勢、一貫性のある言動を、これからも目標にしていきたい」と祝辞を述べられました。

祝宴では、千里丘愛育園の園児22名が、同園長を兼ねる高岡理事長のお祝いに駆けつけ、保育スタッフとともに「ソーラン節」を披露するサプライズも。会場は和やかな雰囲気になりました。

高岡理事長は「この受章は、みんなが私を支えてくれたお蔭」とスタッフを労ったうえで、「社会福祉事業家は「先憂後楽の精神」が大事。私が物事の先頭に立って苦勞（苦難）しないと、部下（後からついてくる人）が苦勞（苦難）することになり先に進めない。先憂後楽の精神でいけば、部下の喜びは、自分の喜びとして共感することができる。それに「親孝行」でなければいけない。これからも社会福祉法人としての使命をしっかりと果たしたい」と強い思いを述べられました。

採用内定式

「先憂後楽の精神で社会福祉の使命を果たしたい」と理事長



地域活動「介護者支援の会」発足 吹田市片山・岸部ブロック

「一人じゃない、地域に仲間がいる！」を合言葉に27年9月3日、介護者を支援する地域活動「片山・岸部ブロック介護者支援の会」が発足しました。吹田市は6つのブロックに分かれています。吹田竜ヶ池ホームの所在する片山・岸部ブロックに拠点が置かれる支援組織です。副会長には吹田竜ヶ池ホームの佐藤裕之施設長が就任しました。

吹田市の後藤圭二市長、川西克幸吹田市医師会長、千原耕治吹田市歯科医師会長、田中俊男吹田市連合自治会長などの働きかけで、特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、民生児童委員などが連携しスタートしたものです。

支援活動の第一弾は28年1月31日、岸二公民館で『男性のための料理教室』を開催します。その後は、介護者が気軽に『サロン・カフェ』を利用できる取り組みや『介護教室』なども計画しています。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう一歩前へ踏み出しました。

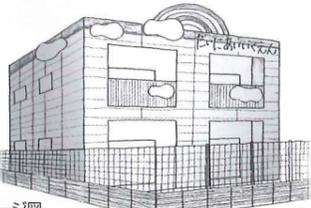
待機児童解消に対応、新園舎を増築 今年6月完成予定、定員200名に

第二愛育園では今年6月完成を目標に新園舎の増築をすすめています。「少しでも待機児童の解消につなげ、地域に貢献したい」との理由からです。

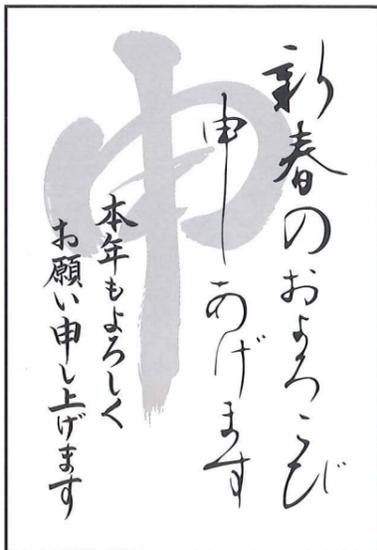
新園舎は現園舎に隣接する土地に増築、3歳児以上の定員数を拡大し、全体で40名増の200名となります。

第二愛育園が所在する吹田市では現在、大型マンションが次々に建設され、それと並行して待機児童解消が早急に求められています。これまで同園では0歳児から2歳児の乳児の受け入れに特化してきた経緯がありますが、25年度から徐々に3歳児以降の幼児枠を増やしてきました。待機児の多い乳児の受け入れ人数を減らすことなく、幼児の受け入れを増やすことは現園舎では手狭になっていました。新園舎は現在建設中で、7月からオープンする予定です。

定員増：160名→200名 (3歳児以上の定員数を拡大)
土地面積：431.29㎡
建物：鉄骨造2階建
延べ面積：全体302.4㎡ (うち保育室243㎡)



※イメージ図



本年もよろしく
お願い申し上げます

体制整備を進める一方、質の向上のために保育部門も含めたキャリアパス制度の見直し、他法人と協働する研究発表会の開催など充実した研修体制を構築していく所存です。

続く激動の年、使命を果たす精進を

現在もなお、社会福祉法人制度改革の検討が進められています。二十八年四月からの施行に向け年明けから再度審議されることになっております。今年も昨年と同様、社会福祉法人にとっては激動の一年になることが予測されます。一部から聞こえてくる社会福祉法人への市場原理の導入や不要論の声に対し、社会福祉法人制度の存続は不可欠であることを強調していくためにも、これまで以上に職員が一丸となり、社会福祉法人としての使命を果たす活動をしていけるよう精進してまいりますので、引き続きご支援を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

中堅スタッフ40名参加



「後輩指導」テーマに保育士中堅研修

「後輩指導について」をテーマに、成光苑では法人本部で「保育士中堅研修」(12月5日)を実施しました。講師は公益法人とよな国際交流協会就労相談コーディネーターで大阪大学ハラスメント相談室専門相談員の植木美恵子氏。

「後輩指導」に絞った中堅研修は初めての試みで、保育士中堅スタッフ約40名が参加。人間理解の視点から、後輩スタッフとの関わり方について指導を受けました。後輩との関わり方は自己覚知・自己開示することから相手を理解し受け止めていくこと、自尊心を大切にしながら、お互いを認め合っていくことから良好な関係が生まれるという内容のポイント。

二人組になったシミュレーションが行われ、「今日の名刺(今日の自分の感情)を使って相手の話を聞いた」「自分の良い所を書いてお互いに読み合いました。相手を受け止める心の枠を広げるためには、まず自分自身を温かい目で見て知ることが大切であることを教えられました。

外部講師迎え漢字指導の実践を学ぶ

一津屋愛育園で「公開保育」(11月11日)が実施されました。公開保育は保育や指導方法を見直す機会として、成光苑の愛育園7カ園の保育士がお互いに見学し合い意見を交換、保育のレベルアップを図るねらいがあります。

同愛育園では成光苑全体で取り組んでいる漢字遊びについて、保育士の園児への漢字指導方法の実践を中心に見学してもらいました。

特に今回は専門的に漢字指導を受けている外部講師の山崎美智子氏の協力を

一津屋愛育園で「公開保育」



を得て、午後から山崎氏による漢字指導(5歳児)の実践を拝見。子どもたちにとっては初めて顔を合わせる山崎氏でしたが、その技術や話術に子どもたちもたちまち親しみ、積極的に答えたり、元氣よく詩や論語を読む姿が見られました。保育士自身が多岐の学びを学ぶ充実した公開保育となりました。

コミュニケーション能力を高める研修に愛育園スタッフ49名参加

成光苑法人研修(保育部門)の一環としてコミュニケーション能力を高める研修(11月14日)が行われました。講師に子ども子育て情報研究センター理事の田中文字子氏を迎え、「保護者・職員間のコミュニケーションを高める」をテーマに愛育園のスタッフ49名が参加しました。



コミュニケーションには「I(アイ)メッセージ」を試みる大切ということが大きなポイント。田中氏によると、Iメッセージとは「私は、こう思うのだけれど…」と相手の心、表情を汲み取りながら、相手の立場に身を置いて考えること。コミュニケーションをうまく交わすには、相手の意向を聞く気持ちを持って接することが重要ということです。そのためには、まず自分自身を変えることで、相手への信頼感や愛情が生まれると強調されました。

参加者の中からは、人と話すことに苦手意識があったり、相手の気持ちを考えず伝言など一方的にしがちだったが、改めて自分を振り返る機会になったとの感想も聞かれました。今後、保護者やスタッフ間とのコミュニケーションに生かしたいものです。

～先輩からのメッセージ～

可能性引き出す 様々な取組みに驚き



一津屋愛育園 浦谷 匠 平成27年度入社

英語遊びなどに夢中の子どもに感動

成光苑を選んだきっかけは大学の先生からの勧めでした。早速、成光苑創業施設の千里丘愛育園に見学に行き保育士の方にお話を伺いました。驚いたのは、保育を通じて英語遊び・漢字遊び・百珠そろばん・リズム・体育遊び・スイミングなど子どもの可能性を引き出す様々な取組みが行われていることでした。しかも、子どもたちが楽しそうに夢中で取り組むその姿にとても感動しました。

入社1年目で保育者として悩む時もありますが、先輩の適切なアドバイスもあり、日々成長する子どもたちとともに充実した毎日を送っています。

自分に何が出来るかを 問い 福祉の道へ



高槻けやきの郷 余田 あずみ 平成27年度入社

チームとして頑張れる職場で学ぶ日々

私が介護の道を選んだ理由は「人と関わる仕事がしたい」と思ったのがきっかけでした。

高校三年生の進路を決める時、現在とは全く違う仕事につくことを考えていましたが、「自分に何が出来るか」と自問自答し、福祉の道に進もうと決めました。

入社して1年、分からないことが多い中で、先輩スタッフにサポートして頂きながら、お年寄りの方や同僚からも多くのことを学ぶ日々です。一人で頑張るだけでなく、チームとしても頑張ることができる職場、仕事だと思っています。

子どもの発達に対応した保育を

「保護者支援はコミュニケーションが大切」と直島氏

相愛大学人間発達学科の直島正樹准教授を講師に迎え、障がい児保育に関する研修会(法本部、12月12日)で開かれ、主に発達障がいのある子どもの理解と支援、その保護者支援について講義されました。

直島氏はまず、発達障がいのある子どもの特徴を説明、障がいの判断が難しい幼児期は「他の子どもとの違いは何か」という保育者の観察が大切と指摘。

参加者は発達障がいのある子どもの「理解のしづらさ」(わかりにくさ)を体験。「ねがぬに」「さがき」に見えるなど、よく似た文字の区別がつかないため、「文字」文字を確認しながらの作業になり問題の答えを出すまでに至らない。

また、「傘」「りんご」「鉛筆」は簡単に描けるが「調子」「ちゃん」と「親切」など抽象的なものは障がいのある子どもには理解しにくいことが直島氏の説明からわかりました。



保護者支援については「ケース障がいの程度など」によって異なる。前提は保護者を追い詰めない対応が大事。日常の小さな配慮の積み重ねが、保護者との信頼関係を築くことができ、情報交換もしやすくなる」と日ごろからのコミュニケーションの大切さを強調されました。

近年、発達障がいの疑いがある子どもが増えているようですが、子ども一人ひとりの発達を観察・把握し、それぞれに合った対応で保育をすすめる必要があると教えられました。

オールジャパンケアコンテスト



第6回オールジャパンケアコンテスト(社会福祉法人こうほうえん主催)が米子コンベンションセンター(鳥取県)で開かれ(10月10日)、成光苑から参加した一人、サンヒルズ紫豊館ケアワーカーの坂本幸平が「排泄B部門」(経験5年未満)で最高の「優秀賞」に輝きました。

同コンテストには全国から約120名の介護のプロが一堂に会し、6つの

「ふくし川柳」で優秀賞

「福祉フェスタinまいづる」に参加

ライフ・ステージ 舞夢は11月22日、舞鶴赤レンガパークで開催された福祉の仕事のPRイベント「福祉フェスタinまいづる」に参加しました。福祉への関心を高める京都北部人材確保事業の一環です。

イベントのなかで催された「ふくし川柳」では、舞夢のスタッフも参加、「紙風船 ふけば入れ函が 飛んでゆく」で優秀賞、また、京都北部イケアメン介護男子コンテスト(ポスターセッション)で1位を獲得しました。

お笑いコンビ「テツandトモ」と福祉施設で働く若手介護士によるトークショーでは、「車いすに～ラップの芯がついているのは～なんでだろ～?」など、介護の工夫についてクイズ形式で紹介し、子ども連れの家族や中高生の方々に大受け。今後も様々なイベントなどを通じて、多く

人材難の時代、外国人との共生を発信 京都老人福祉学会で

「2025年へ向けて高齢者福祉・介護のあり方を考える」をテーマに、第13回京都老人福祉学会(主催:京都府老人福祉施設協議会・京都市老人福祉施設協議会)が京都テルサで開催(11月27日)され、第3分科会実践事例発表でライフ・ステージ舞夢の大垣智義が「社会福祉法人成光苑、ライフ・ステージ舞夢における人材確保、在日外国人」について発表を行いました。

第3分科会は「人材確保・定着・育成の取り組み」(6事例発表)がテーマ。発表では、舞夢の上野由香子施設長が在日外国人雇用に関する課題に取り組みしてきた経緯を説明、成光苑が平成15年から実施しているホームヘルパー養成講座で在日外国人を受け入れ、養成、就労、育成、

キャリアパスと現在に至ったことを紹介しました。また、同施設の大切な事業として実施している在日外国人の日本語勉強会(つぼみの会)についても披露しました。

他の事例発表も、昨今の介護業界が直面している人材不足、人材確保をどうすれば解決できるかを模索しながら取り組まれた成果が中心で、参考になったと同時に大いに刺激になりました。

高齢化が顕著な舞鶴市で、舞夢では地域に定住する外国人と「共生」していく意識を発信しながら、在日外国人の地域生活を困難にしている課題を明らかにし、解決のために働きかける取り組みを今後も行っていきたいと思えます。

「排泄B部門」で最高の優秀賞

サンヒルズ紫豊館 ケアワーカーの坂本幸平スタッフ

介護分野に分かれ、それぞれの課題に応じた実技を披露するものです。成光苑からは6名のスタッフが出場しました。

介護技術を競い合うだけでなく、福祉に携わる仲間が「教え合い、語り合い、交流を深める」ことが目的の一つ。次世代を担う若いスタッフには貴重な経験となっています。



の方に福祉への意識を高めてもらい、仕事の魅力が伝わるよう積極的な活動を展開したいと思っています。

「在日外国人の受け入れ・養成の取り組み」発表